

第2回京丹後市立地適正化計画等検討会議 会議録

- 1 会議名 第2回京丹後市立地適正化計画等検討会議
- 2 開催日時 令和7年5月30日（金） 午後1時30分から午後3時30分まで
- 3 開催場所 京丹後市大宮庁舎 4階 第2会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員
梅田利也、堀貴紀、藤井美枝子、荒川直人、小室誠治、味田佳子、山岡誠、大庭哲治
欠席3人（平野佐世子、西村まさみ、嶋田健一郎）
 - (2) 事務局
建設部長 中川正明、政策調整監 唐松雅司、都市計画・建築住宅課長 井上浩一
市長公室 政策企画課長 島貫博志、課長補佐 野木秀康
国際航業株式会社
- 5 次第
 - (1) 開会
 - (2) 報告
ア 京丹後市の現状等について
イ 市民アンケート調査について
 - (3) 議題
ア 将来都市構造の方向性について
イ その他
 - (4) その他
 - (5) 閉会
- 6 公開又は非公開の別 公開
- 7 傍聴者 2人
- 8 発言の内容（要旨）

会議の成立

過半数の出席により成立

（京丹後市立地適正化計画等検討会議設置要綱第6条第2項の規定）

委員長あいさつ

本日の会議では、現行の都市計画マスタープランの進捗状況、京丹後市の現状と課題、地域公共交通計画の概要に加え、先日実施された市民アンケート調査の中間報告などを踏まえ、京丹後市の将来の都市構造の方向性について、皆様と一緒に考えていきたいと思います。

皆様からの忌憚のないご意見をいただき、充実した議論を通じて、立地適正化計画の検討をさらに進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

議事

【(1) 報告 ア：京丹後市の現状等について／イ：市民アンケート調査について】

事務局説明（資料 2、3、4）

（委員）

資料 3、計画的な土地利用の誘導というのはどういうことなのか。

公共交通について、観光客に対する施策と都市拠点と地域拠点をどう繋ぐかという方策としての考え方は分けた方が良いと思います。

（事務局）

計画的な土地利用の誘導については、立地適正化計画の中で、拠点等に都市機能等を集積していくことなど土地利用について計画するものです。

公共交通関係については、地域の方と観光客とで異なる対応ができると思います。地域の方には、学生や高齢者などが利用しやすい、支え合いの交通として対応していくことを考える必要があります。観光客には、鉄道で移動されてくる方というのが一定数あるため、駅を中心としたバスなど地域と連携した形で進めており、それらに対応できるシステムと体制を整備していきたいと考えています。

（委員）

資料 2、都市計画マスタープランの進捗状況で、「継続」としているもので、今後、内容が変わりそうなものがありますか。

（事務局）

マスタープランは、平成 28 年に作成したもので、計画に沿っての事業進捗を確認する事項です。今後、「拠点の形成」について検討会のご意見を反映し計画していきます。

（委員）

「拠点の形成」を重点的に進められていくのでしょうか。

（事務局）

全てがまちづくりにおいて重要な施策だと認識しています。

現在、高速道路の整備が進められており、数年後には開通を見据えたまちづくりを進めていかなければならないと考えています。このことに関係するものが非常に喫緊の課題であり、立地適正化計画を策定し、新たな玄関口として都市拠点の整備を進めていかなければならないと考えています。

(委員長)

この会議は立地適正化計画の検討として将来の都市構造の方向性を議論するものです。

資料2は、現行の都市計画マスタープランで、京丹後市の都市計画を進めていく上で非常に重要な骨格となる計画と位置づけをされています。この計画に基づいて様々な取組が実施されており、基本的に継続や完了、完了見込みと着々と進められていると理解できます。

特に今後の主な取組等で、「立地適正化計画と合わせて」の文言があるものは、この会議で関連するものです。また、拠点の形成なども、特に立地適正化計画に関わる重要な項目でありますので、「継続」と記載されていますが、継続の中でいろんな課題が見えるものがありますので、今後どのようにして見直すか、あるいは、立地適正化計画の中で進めていくのか検討につなげていきます。

(委員)

現時点のアンケート回収数は。

(事務局)

現時点で800程度の回収です。

(委員)

現状の課題として、全国的にも人口が減少しています。京丹後市の人口の維持に対応する都市計画の方針となるものと思います。人口が減少し若い人がなかなか帰ってこない現状で、若い人たちがどう思っているのか、若い人の市民意向が反映されているのか気になります。若い人の意見も聞き、それを踏まえビジョンを見ていくのが大切だと思います。

地域拠点について、京丹後市全体の満足度・重要度が示されています。各拠点での意見やそれぞれの地区ごとのニーズに違いがあるのかなどをバックデータとして集計され、次回最終版として報告されますか。

(事務局)

現在、回収段階であり、回収完了後に地域別や世代別のクロス分析を行います。基本は地域と世代をクロスさせ、若い世代、子育て世代、高齢者の意見傾向の違いや、旧6町単位での違いの分析を考えています。次回には、取りまとめ報告します。

(委員)

資料3-1、公共交通の目標「乗って楽しい公共交通の実現」ということで、高齢者の免許返納が増えてきています。京都までの切符予約に、駅まで行かなければならず、30分は待たないと指定席が取れません。また、京都駅に到着すると改札口で切符を渡さないといけない。このような手間がかかります。どうにかできないかと意見を皆さんからいただいています。

(委員)

JR のシステムを利用させていただいているので、そのようなことに対応することが、現実には非常に難しく、コストもかかり、現実的ではないと思われます。

現在、JR のアプリを使用し、京都丹後鉄道の路線までの予約ができるような取組を進めているところです。発券の手間は必要となりますが、予約ができるようになります。座席を予約してありますので、特急に乗ってから車掌から切符を購入するものです。

(委員)

資料 3-1、目指すべき将来像③「観光客が多い本市においては～」として、地域経済の波及効果を高めていく必要があると思います。例えば海に行くと日帰りされる方が多く、あまり消費に結びついていないように思います。経済活動に直接繋がりにくい交通となっていると思います。

新しい施設の整備で、そのようなことに繋げていけると良いと思います。経済への波及効果を高めていくような、現状と異なる交通の使い方など考えられているものはありますか。

(事務局)

京丹後市だけで考えると、観光客の方も大勢来ていただいています。やはり自動車で来られた方は日帰りで、朝特急列車でこられた方は夕方に帰えられる事例があります。

丹後は 1 つという観点で考えると、天橋立で降りて、次に伊根に行き、そこで周遊観光という形で時間を使っていただき丹後で宿泊していただくような、公共交通のネットワークの構築や、便利で安くできれば、経済波及効果を求めていけるとと思います。そのようなネットワークづくりの観点も考えていきたいと思います。

(委員長)

重要なご指摘だと思います。公共交通の視点でみれば、しっかりとネットワークを形成することは観光客にとってもプラスとなります。一方で、拠点をしっかり整備することによって、観光客がそこに滞在するなど、両面から検討していく必要があります。まさに地域公共交通計画と立地適正化計画の両面から考えていく必要があります。

(委員)

今年度グループとして、京丹後市と相談しながら、国交省の日本版 MaaS 推進支援事業に応募しました。目的として、鉄道の利用促進の観点では、京丹後市には多くのお客さまが来られていること、天橋立で降りられるお客さまの数からすると、もっとポテンシャルがあると考えています。鉄道会社としては、天橋立で降りた後、東西へプラスアルファ移動いただく周遊の需要の可能性があると考えています。このことに係る取組を力強く進めていきたいと考えています。

また、京丹後市においては、グループの他サービスである mobi やライドシェアに取り組んでおり、利便性が上がっていると思うものの、新しいサービスが故に、Google マップや大手

の検索サービスに出てこない状況です。観光客の方がサービスの存在を知らないといふ mobi で移動することが選択肢に入らないです。実際に、現状の mobi の利用者の 90%以上が地域住民の方です。それで役割を果たしておりますが、良いサービスなので、さらに周遊の拡大であったり、観光客誘致活動もできるのではないかと考えています。

そういった観点から、観光客にとって便利な交通を作るのが理想とは思いつつも、ただ新しいものを何か作るというよりも、今あるものを最大限活用できる環境を作りたいというのが鉄道会社としての考えであります。

まず観光客が「ここに行きたい」と思ったときに、公共交通機関でどう行けばいいか、どの交通手段が使えるか、比較検討できる仕組みが必要だと考えています。現状では、各社のホームページにアクセスして時刻表を調べるなど、非常に手間がかかります。これでは、せっかく京丹後市に来てくださった観光客の方も、移動を諦めてしまう可能性があります。

そのような情報をアプリ内で一元的に解決することで、「行こうと思えば行ける」という状況を作り出し、観光客の方に京丹後市内の移動をより身近に感じていただきたいと思います。この取組により、新たな周遊客の増加に繋がる可能性も秘めていると見ています。

また、仕組みを構築して終わりではなく、環境を整えた上で、地域の皆様と共に、新たな観光客を呼び込む動きを強化していきたいと考えています。観光客がこれまでマイカーでしか移動できなかった場所へも、公共交通機関を利用して来てくれるようになれば、地域の方々にとっても喜ばしいことだと思います。

今回、JR と連携したフリーパスも導入しました。このパスをお持ちのお客様は追加料金なしで利用できるため、コスト的なハードルも低い仕組みです。

我々の考え方としては、地域住民向けの動線と、観光客向けの動線を分けて考えるべきだと捉えています。アプリ内では、観光案内や、ご協力いただければスーパーや飲食店などのインセンティブとしてクーポン等の掲載とも連動させながら、「ここに行きたい」と思ったらすぐに「どうやって行けばいいか」を検索できる仕組みを構築したいと考えています。

現在、このシステム開発を進めている段階であり、今後、サービス面でのご協力をお願いする場面も出てくると思います。

(委員長)

機能でいうと、過去のトレンドをみると減少している状況にあります。都市機能をいかに持続させるか、あるいはどのようにすればこの京丹後市の方々が不便を感じずにこの機能にアクセスできるのかの視点を持つておく必要があります。まさに立地適正化計画の考え方の拠点とネットワークの在り方に繋がってきますので、そのあたりも含めご意見をお願いします。

(委員長)

一般的な市民アンケートの回答は、高齢世代が多い傾向にあり若い世代の意見をどう吸い上げるか非常に難しい課題であると思います。工夫点はありますか。

(事務局)

今回、WEB 回答や QR コードで読み取りによりアンケートを送付した方以外の方も回答ができるようし、ホームページにも周知することで、回答しやすい状況や広く市民の方々のご意見についての募集を行いました。

(委員)

資料 4、「運行本数の維持など鉄道サービスの確保」の満足度が低い。どのような環境になれば満足度が上がりますか。便数が増えれば上がる考えですか。

(委員)

住民としては、便数だけでなくルートも大切だと思います。例えば私が住んでいるところから峰山に行くには、一回乗り換えが必要です。便数が多いだけではなく、循環ルートのようなものがあると良いかと思います。

また、車両は、大型車でなくても、小型車でも良いと思います。単に便数だけ増えるということではないと思います。

(委員)

運転手不足等の色々な問題や利用者も色々と変わっていく中で、柔軟に対応していかなければならないと考えています。このようなご意見を挙げていただき、利用者目線での利用しやすい環境を作っていきたいと思います。

(事務局)

アンケートの設計上では便数の想定をしています。

(委員)

京丹後市では、計画ごとにアンケートを実施されている印象です。図書館については 3 回程度アンケートされ、結果も変わってきていると思います。重要度・満足度については、総合計画でもアンケートをされていました。

アンケートの結果を最重要視していただきたいですが、1 つのアンケートだけでなく別のアンケート結果を含め検討し、しっかりとした計画にしていきたいです。

(委員長)

今回のアンケートから非常に重要な意見が得られるとは思いますが。これまでのアンケート結果を参照し検討を進めることが大切なことだと思います。

【議題（１）将来都市構造の方向性について】

事務局説明（資料 5）

(事務局)

欠席の3委員のご意見です。

公共交通は、社会人の移動手段が車中心である現状を踏まえ、若年層や学生が移動しやすい公共交通の環境整備が重要だと思います。

移動販売やネット販売、集配ボックスの活用など、生活における利便性のための工夫も考えられると思います。生鮮食品の購入については、具体的な方策の検討が必要だと思います。

多様なライフスタイルに対応したまちづくりとして、都会からの移住や二拠点生活が促進される環境や、児童・生徒数を維持し学校の学びの場を守るためには、一定の場所に人が集まることも考慮が必要だと思います。一方で、住みやすさと利便性の優先バランスは個人の選択に委ね、公共交通もその選択肢の一つとして提供されることが重要だと思います。

農業や林業といった基幹産業が、丹後の経済を支える重要な要素であるとの認識が示されています。これらの産業の維持・発展が、地域の持続可能性に繋がると考えられます。

子どもたちが現状に関心を持ち、100年後の丹後が豊かな町であることを願うとともに、地域への愛着を持つ子が増えることを期待されています。地域の未来を担う人材育成の視点も重要だと思います。

(委員)

都市拠点の整備場所は決定しましたか。

拠点形成の方針の内容を深めることについて、あったら良いなを言い出すと、あれもこれも欲しいということになると思います。持続可能な生活維持のためにどのように土地を利用するのか、適切な集積が必要ではないかについて、私もそのように思います。都市拠点と地域拠点の内容として、一定集積をしていく必要があると思っています。

公共交通に関する意見が多かったのですが、これをつなぐための動き、動線をどうするかがとても大事になると思います。便利で安く移動できるものが必要とありましたが、そうは思いません。特に観光客は、費用の負担があっても移動していただいたらよいのではないかと思います。そういうところにお金をかけることで、地域産業への効果もあると思います。観光客の方には必ずしも手厚くなくてよいのではないかと思います。

移動を地域で支えるというのは限界があると思いますので、そこはビジネスとしてやっていただき、カバーできるところはカバーしていく。将来的には自動運転などが実現していくと思いますので、人口が減っていくのは変えられないので、あったらいいのではなく、そのような視点で分析していく必要があると思います。

(事務局)

都市拠点については、最適な位置を計画したものです。

地域拠点形成の位置づけは、持続可能というところが難しいと思われますので、これもあれも詰め込むのではなく、本当に必要な機能についてご意見をいただきまとめていきたいと思っています。

(委員長)

ネットワークは非常に重要なので、今後考えていく必要があると思います。
拠点形成の方針案については、どのような観点から整理されたのでしょうか。

(事務局)

拠点の方針案は、第3次総合計画や既存のマスタープランを基に、考えられるものをたたき台として取りまとめています。

(委員長)

丹後の現状では、「商業機能や医療機能等の集積が低い」とあります。通常であれば拠点形成の方針としては、集積が低いので高めるとか、維持するとかそういう観点だと思います。とりわけ関連した記載があることにはありますが、現状に対する対応方針は、何をもってその方針が記載されているかの根拠が大事だと思います。総合計画から整理されているのか、データ、アンケート結果からなど、根拠を整理されたいと思います。

現状分析やアンケートの結果を反映する予定はありますか。

(事務局)

丹後地域の商業施設については、基礎資料により、各地区で店舗が少なくなっていることから記載したものです。

(委員)

都市拠点公共施設について、市役所の前の駐車場がいい感じに有効利用できていると思います。新しい施設を作るときにも、施設のための駐車場として使うだけではなく、民間と一緒に使っていく、もしくは例えば低料金で利用できるなど、民間事業者自ら土地を購入し駐車場を整備するよりも、利便性がよい使い方ができると良いと思います。

施設場所が、24時間有効に使えるような方向性を考えれば、より維持や、お金を生み出せるようなこともあるのではないかと思います。

(事務局)

都市拠点は、しんざん小学校の隣接場所を計画地としておりましたが、見直しにより計画場所を変更しました。この計画地では必要最低限の敷地となりますので、駐車場も必要最低限のもので、現段階では広い駐車場の予定がありません。

ご意見いただきました、共同や民間との連携は非常に大切な考え方だと思っています。公共施設の整備により民間施設との連携が進むよう、今後とも検討していきたいと考えます。

(委員長)

立地適正化計画の中で駐車場に関しても色々と取組があり、例えば各施設がそれぞれ駐車場を設けるのではなくて、集約化して共同利用する方法もありますし、また昨今エリアの価

値をどう高めていくのかという視点から考えて、駐車場を単に停めるだけの利用ではなくて、キッチンカーで飲食などができるスペースにするなど、フレキシブルにその都度その時々に応じてどのように利用するのかの観点も大事だと思います。マネジメントに関することで、非常に重要なご意見だと思いました。

(委員)

都市拠点の施設計画近辺は、交通混雑による渋滞が発生しています。バスがバス停ではなく道路に停車したり、歩道にガードレールが無かったりするので、道路整備計画も同時進行で行っていく必要があると思います。

(事務局)

計画に当たり交通管理者等との連携を並行して進め、交通安全等に関しても一体の検討を行っていくことを考えます。

市の駐車場を有効活用していただいていることについて、普段から管理をされているため、不法投棄の車両等がない状況にあります。新たな施設についても、隣接する施設等の管理者との調整をしていくことが大切だと思っています。

(委員)

今でも渋滞を招いている状態でありますので、交通安全を含めて整備をお願いしたいです。

計画されている図書館と子育て支援の複合施設については、わくわくしながら行きたい、何度も行きたいと思えるようなものにしてほしいと思います。

人口減少は避けられない前提として、拠点形成の方針を、人々が魅力を感じ繰り返し訪れたいような視点をもって整理していくことが必要だと思います。同時に拠点と拠点をつないでいくシステムなどを整備していくことが大切だと思います。

(委員長)

都市拠点について、交通の安全性や渋滞問題などの懸念点のご指摘をいただきました。

拠点形成を図っていく上では留意点として捉える必要があると思います。

新駅設置の検討推進、ネットワークによる各拠点との連携について、いかに移動やモビリティの利便性を高めていくかの視点から都市拠点の在り方を検討することであると思います。

(委員)

アンケートで地域単位でのクロス分析により、地域のニーズと整合が取れているか、地域の思いと方針にズレが無いかチェックが必要と思います。

拠点形成の方針で「高齢者にも配慮」「観光地」などは、複数の地区でも共通するものであると思います。

(事務局)

データ等を確認して整合を図っていきます。

(委員長)

各地域拠点の方針案は、どのような基準で記載するか整理してください。同じ方針のある拠点や、独自性を発揮しないといけない拠点もあると思いますので、わかりやすく示すようにしてください。

(委員)

拠点形成の方針ですが、地域住民の皆さんからの声は入っていますか。
病院については、6町のみなさんが通院できることを考えると良いと思います。

(事務局)

色々と議論いただき多角的な意見を取り入れ、最終のものとして整合を図り作成を進めます。

(委員)

新駅は、橋をかける前提だと北側南側どちらかが現実だろうと思います。新しい施設の場所まで約500mの距離を地域の方が歩かれるのかという視点です。

鉄道会社の立場からは、鉄道だけで目的が果たせる・乗り換えが無いというのが便利ではないかと思います。どのようにすれば利便性を感じていただけるのか、駅を降りた後の交通とどのように連携するか検討が必要と思います。

仮に、駅を整備するのであれば、対象範囲だけでなく、駅からの都市拠点への動線も何らかの意味をもち、地域全体として公共交通と連携する計画が描けると良いと思います。

(事務局)

京都府と沿線の近隣市町との共同計画である、鉄道事業再構築実施計画では、令和7年度から10年間で新駅設置をしっかりと位置づけられています。設置位置は、調整を重ねながら進めていくものと考えます。

都市拠点へどう繋げていくかは、安全性も含め関係機関との調整の中で検討を進めていきたいと思います。

(委員長)

それぞれ単体で整備するのではなく、連携をして、拠点としてどう整備するのかを検討してください。

(委員長)

色々なご意見をいただきました。拠点形成の方針への更なるご意見については、事務局へお寄せください。

【議題（２）その他】

なし

副委員長あいさつ

京丹後市のまちの現況や、市民アンケートの結果を事務局の皆様にご報告いただきました。それを踏まえ、都市拠点や地域拠点、将来都市構造の方向性について、皆様からご意見を賜りました。

京丹後市が持続可能なまちへと発展し、市民の皆様が安心安全豊かに暮らしていただけますよう、引き続き貴重なご意見を賜りますようお願いします。